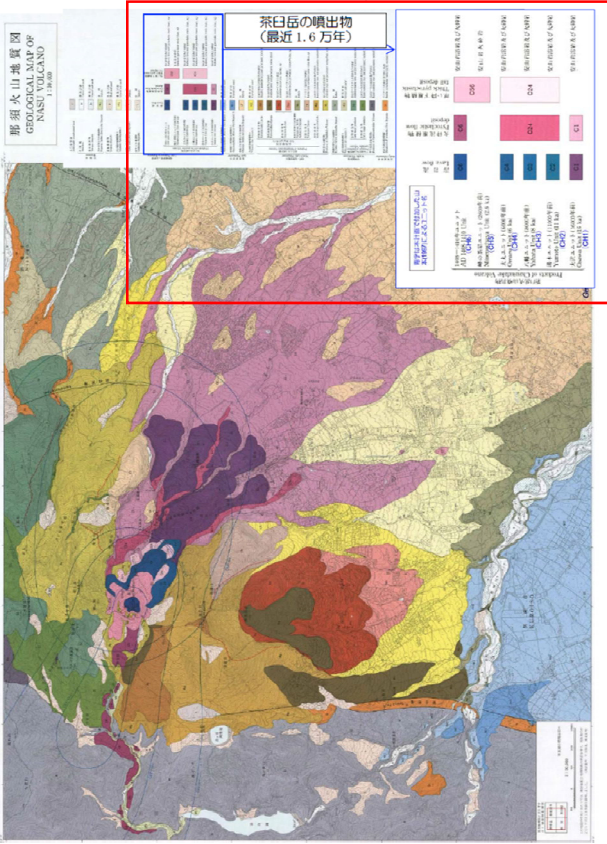



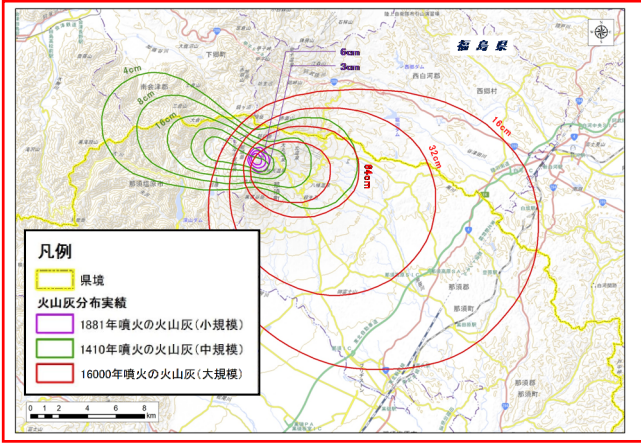
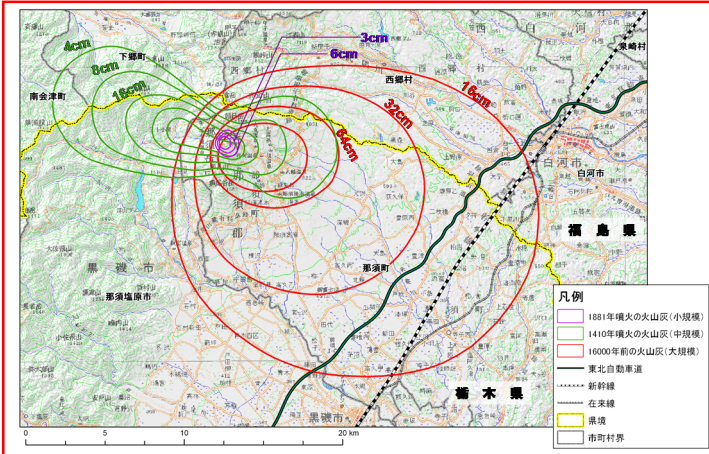
【新旧対照表】那須岳火山噴火緊急減災対策砂防計画（基礎資料編）

該当箇所	更新後	現行
<p>第2章 那須岳の火山活動</p> <p>2.1 那須岳の噴火史</p> <p>2.1.2 那須岳の地質図、火口位置図</p>	<p>2.1.2 那須岳の火山地質図、火口位置図</p> <p>16,000年前以降の那須・茶臼岳の噴出物については、山元（1997）によりまとめられ、茶臼岳の噴出物が噴出年代毎にCH-1～CH-6に分類され、各分布域が示されている。</p> <p>各分布については、山元・伴（1997）により、火山地質図の形でまとめられた（図2-2 <u>那須岳火山地質図【山元・伴（1997）】</u>、地質図ではC1～C6と表現されている）。これらマグマ噴火の実績を表2-1に示す。</p>  <p>図 2-2 那須岳火山地質図【山元・伴（1997）】</p>	<p>2.1.2 那須岳の火山地質図、火口位置図</p> <p>16000年前以降の那須・茶臼岳の噴出物については、山元（1997）によりまとめられ、茶臼岳の噴出物が噴出年代毎にCH-1～CH-6に分類され、各分布域が示されている。</p> <p>各分布については、山元・伴（1997）により、火山地質図の形でまとめられた（図2-2、地質図ではC1～C6と表現されている）。<u>これらマグマ噴火と歴史時代の水蒸気噴火を合わせた既往噴火実績を表2.1に示す。</u></p>  <p>図 2-2 那須岳火山地質図【山元・伴（1997）】</p>

【新旧対照表】那須岳火山噴火緊急減災対策砂防計画（基礎資料編）

該当箇所	更新後	現行
2.1.2 那須岳の地質図、火口位置図	(5)那須岳で想定される主な噴火 那須岳における近年の噴火は、ごく小規模な水蒸気噴火のみである。一方、古記録と地質調査により、より規模の大きい噴火についても、ある程度の噴火推移がわかっている。そのような噴火の事例として1881年噴火と1410年噴火の事例がある。	(5)那須岳で想定される主な噴火 那須岳における近年の噴火は、ごく小規模な水蒸気爆発のみである。一方、古記録と地質調査により、より規模の大きい噴火についても、ある程度の噴火推移がわかっている。そのような噴火の事例として1881年噴火と1410年噴火の事例がある。
2.2節～2.4節	第2章 那須岳の火山活動。 2.1 那須岳の噴火史 <u>2.2 那須岳で想定される火山現象と規模</u> <u>2.3 噴火シナリオ</u> <u>2.4 現在の火山活動状況</u>	第2章 那須岳の火山活動 2.1 那須岳の噴火史 <u>2.2 現在の火山活動状況</u> →更新後は2.4節へ移動 <u>2.3 那須岳で想定される火山現象と規模</u> →更新後は2.2節へ移動 <u>2.4 噴火シナリオ</u> →更新後は2.3節へ移動 2章の構成が上記のように変更になっています
2.2 那須岳で想定される火山現象と規模	<p><u>2.2</u> 那須岳で想定される火山現象と規模</p> <p>図 2-4 にごく小規模～大規模な噴火とその事例、噴火に伴って発生することが想定される土砂移動現象を整理した。また、それぞれの規模における火山灰の分布実績を図 2-5 に示す。</p> <div data-bbox="533 815 1111 1158" data-label="Diagram"> </div> <p>※DRE(岩石換算体積): 火山灰などの密度の小さい噴出物を岩石に換算した場合の体積</p> <p>図 2-4 那須岳で想定される噴火とそれに伴う土砂移動現象の整理</p>	<p><u>2.3</u> 那須岳で想定される火山現象と規模</p> <p>図 2-9 に、イベントツリーで区分されたごく小規模～大規模な噴火とその事例、噴火に伴って発生することが想定される土砂移動現象を整理した。また、それぞれの規模における火山灰の分布実績を図 2-10 に示す。</p> <div data-bbox="1350 815 1928 1158" data-label="Diagram"> </div> <p>※DRE(岩石換算体積): 火山灰などの密度の小さい噴出物を岩石に換算した場合の体積</p> <p>図 2-9 那須岳で想定される噴火とそれに伴う土砂移動現象の整理</p>

【新旧対照表】那須岳火山噴火緊急減災対策砂防計画（基礎資料編）

該当箇所	更新後	現行
	 <p>図 2-5 各噴火規模の火山灰分布実績【山元・伴（1997）】</p> <p>図 2-6 に那須岳で想定されるすべての噴火ケースを抽出したイベントツリーを示す（那須岳火山噴火警戒レベル導入検討委員会に追記）。 那須岳の噴火は 1) 数十年に1回程度のごく小規模な噴火 2) 数百年に1回程度の小規模噴火 3) 数千年に1回程度のブルカノ式噴火 4) 数万年に1回程度の大規模ブルカノ・プリニー式噴火 に区分されている。 ここでは、この区分を参考に、緊急減災対策砂防計画で対象とする噴火シナリオケースの抽出を試みる。</p>	 <p>図 2-10 各噴火規模の火山灰分布実績【山元・伴（1997）】</p> <p>図 2-6 に那須岳で想定されるすべての噴火ケースを抽出したイベントツリーを示す（那須岳火山噴火警戒レベル導入検討委員会に追記）。 那須岳の噴火は 1) 数十年に1回程度のごく小規模な噴火 2) 数百年に1回程度の小規模噴火 3) 数千年に1回程度のブルカノ式噴火 4) 数万年に1回程度の大規模ブルカノ・プリニー式噴火 に区分されている。 ここでは、この区分を参考に、緊急減災対策で対象とする噴火シナリオケースの抽出を試みる。</p>

【新旧対照表】那須岳火山噴火緊急減災対策砂防計画（基礎資料編）

該当箇所	更新後	現行
<p>2.2 那須岳で想定される火山現象と規模</p>	<p>那須岳で想定されるすべての噴火ケースを抽出したイベントツリーを図 2-6 に示す（那須岳火山噴火警戒レベル導入検討委員会に追記）。</p> <p>那須岳の噴火は <u>数十年に1回程度</u> の <u>ごく小規模な噴火</u> <u>数百年に1回程度</u> の <u>小規模噴火</u> <u>数千年に1回程度</u> の <u>ブルカノ式噴火</u> <u>数万年に1回程度</u> の <u>大規模ブルカノ・プリニー式噴火</u> <u>に区別されている。</u></p> <p><u>ここでは、この区分を参考に、緊急減災対策砂防計画で対象とする噴火シナリオケースの抽出を試みる。</u></p> <div data-bbox="436 582 1209 1125" style="text-align: center;"> <p>（那須岳の過去の噴火から想定されるすべての噴火ケース）</p> <p>那須岳火山噴火警戒レベル導入検討委員会より引用</p> </div>	<p>更新後の記載に対応するページは現行計画にはありません</p>

図 2-6 那須岳の噴火イベントツリー
 出典：「那須岳火山噴火警戒レベル導入検討委員会報告書」

【新旧対照表】那須岳火山噴火緊急減災対策砂防計画（基礎資料編）

該当箇所	更新後	現行
<p>2.3 噴火シナリオ</p>	<p>2.3 噴火シナリオ</p> <p>那須岳の噴火シナリオは、次の噴火ではどのような事態が発生し、どのように推移し、それぞれの局面でどのような情報（図 2-8、図 2-9に示す那須岳の噴火警戒レベル：平成 21 年 3 月初版、令和 2 年 10 月改定）が発表されるかのイメージを掴むと同時に、住民避難や道路規制等の防災対策に役立てることを目的として、那須岳火山噴火警戒レベル導入検討委員会により作成された。図 2-7に那須岳の噴火シナリオを示す。</p> <p>那須岳の噴火シナリオは那須岳火山防災マップと過去の噴火実績を元に、想定される噴火活動とその推移と時間経過をフローの形で示している。噴火活動の状況に対応した噴火警戒レベルと、立ち入り規制範囲と居住地における避難準備・避難のタイミングを時系列に合わせて示している。</p> <p>那須岳で想定される代表的なシナリオとしては、静穏期から火山活動の高まりが数日～数ヶ月続いた後に小規模な噴火が発生（噴火警戒レベル 2）し、火山活動が低下するシナリオ、小規模噴火発生から数ヶ月～2年程度噴火が継続（噴火警戒レベル 4）した後にブルカノ式噴火に伴い火砕流が発生（噴火警戒レベル 5）するシナリオ、可能性は低いものの前兆期から突発的に中規模噴火が発生（噴火警戒レベル 3）し、そのまま噴火が活発化していくシナリオなどが想定されている。</p>	<p>2.4 噴火シナリオ</p> <p>那須岳の噴火シナリオは、次の噴火ではどのような事態が発生し、どのように推移し、それぞれの局面でどのような情報（図 2-12、図 2-13に示す火山噴火警戒レベル）が発表されるかのイメージを掴むと同時に、住民避難や道路規制等の防災対策に役立てることを目的として、那須岳火山噴火警戒レベル導入検討委員会により作成された。図 2-11に那須岳の噴火シナリオを示す。</p> <p>那須岳の噴火シナリオは那須岳火山防災マップと過去の噴火実績を元に、想定される噴火活動とその推移と時間経過をフローの形で示していると同時に、噴火活動の状況に対応した噴火警戒レベルと、立ち入り規制範囲と居住地における避難準備・避難のタイミングを時系列に合わせて示している。</p> <p>那須岳で想定される代表的なシナリオとしては、静穏期から火山活動の高まりが数日～数ヶ月続いた後に、小規模な噴火が発生（噴火警戒レベル 2）した後に火山活動が低下するシナリオ、小規模噴火発生から数ヶ月～2年程度噴火が継続し（噴火警戒レベル 4）た後にブルカノ式噴火に伴い火砕流が発生（噴火警戒レベル 5）するシナリオ、可能性は低いものの前兆期から突発的に中規模噴火が発生（噴火警戒レベル 3）し、そのまま噴火が活発化していくシナリオなどが想定されている。</p>

【新旧対照表】那須岳火山噴火緊急減災対策砂防計画（基礎資料編）

該当箇所	更新後	現行
<p>2.3 噴火シナリオ</p>	<p>那須岳の噴火警戒レベル — 火山災害から身を守るために —</p> <p>噴火警報等で発表する噴火警戒レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●噴火警戒レベルとは、噴火時に危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。 ●各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」）。 ●対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。 <p>■那須岳 噴火警戒レベルと規制範囲</p> <p>この図は、国土交通省及び国土院の「噴火警戒レベル」を参照して作成しています。</p> <p>●噴火警戒レベルに応じて下記のような防災対応が必要になります。</p> <p>レベル5（避難）：危険な居住地域からの避難等。</p> <p>レベル4（避難準備）：警戒が必要な居住地域での避難準備。</p> <p>レベル3（入山規制）：山頂から5km程度内の立入規制。</p> <p>レベル2（火口周辺規制）：山頂から1.5km程度内の立入規制。</p> <p>レベル1（活火山であることに留意）：状況に応じて火口内への立入規制等。</p> <p>登山道等 ***** は通行できません。</p> <p>一般道路：行政区域境界、主な規制地点</p> <p>登山道：危険な居住地域からの避難等、警戒が必要な居住地域での避難準備、この図は「那須岳火山防災マップ」（那須市、那須塩原市、栃木県、平成14年3月）に基づき作成しています。</p> <p>■那須岳の噴火警戒レベルは、地元自治体等と調整して作成しました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については那須市、那須塩原市、下郷町、西郷村にお問い合わせください。</p> <p>気象庁 地震火山部 火山監視課 火山監視・警報センター TEL: 03-4752-3900(内線189) https://www.jma.go.jp/jma/index.html</p> <p>■宇都宮地方気象台 TEL: 028-635-7260 https://www.jma-net.go.jp/utsunomiya/</p> <p>■那須地方気象台 TEL: 024-534-2162 https://www.jma-net.go.jp/fukushima/</p> <p>気象庁 地震火山部 火山監視課 火山監視・情報センター TEL: 03-3212-8341(内4526) http://www.jma.go.jp/jma/index.html</p> <p>■宇都宮地方気象台 防災業務課 TEL: 028-635-7260 http://www.tokyo-jma.go.jp/home/utsunomiya/</p> <p>■那須地方気象台 防災業務課 TEL: 024-534-0321 http://www.sendai-jma.go.jp/tda/fukushima/</p>	<p>那須岳の噴火警戒レベル — 火山災害から身を守るために —</p> <p>噴火予報及び警報で発表する噴火警戒レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●噴火警戒レベルとは、噴火時に危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。 ●各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「平常」）。 ●対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。 <p>■那須岳 噴火警戒レベルと規制範囲</p> <p>この図は、国土交通省及び国土院の「噴火警戒レベル」を参照して作成しています。</p> <p>●噴火警戒レベルに応じて下記のような防災対応が必要になります。</p> <p>レベル5（避難）：危険な居住地域からの避難等。</p> <p>レベル4（避難準備）：警戒が必要な居住地域での避難準備。</p> <p>レベル3（入山規制）：山頂から5km程度内の立入規制。</p> <p>レベル2（火口周辺規制）：山頂から1.5km程度内の立入規制。</p> <p>レベル1（平常）：状況に応じて火口内への立入規制等。</p> <p>登山道等 ***** は通行できません。</p> <p>一般道路：行政区域境界、主な規制地点</p> <p>登山道：危険な居住地域からの避難等、警戒が必要な居住地域での避難準備、この図は「那須岳火山防災マップ」（那須市、那須塩原市、栃木県、平成14年3月）に基づき作成しています。</p> <p>■那須岳の噴火警戒レベルは、地元自治体等と調整して作成しました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については那須市、那須塩原市、下郷町、西郷村にお問い合わせください。</p> <p>気象庁 地震火山部 火山監視課 火山監視・情報センター TEL: 03-3212-8341(内4526) http://www.jma.go.jp/jma/index.html</p> <p>■宇都宮地方気象台 防災業務課 TEL: 028-635-7260 http://www.tokyo-jma.go.jp/home/utsunomiya/</p> <p>■那須地方気象台 防災業務課 TEL: 024-534-0321 http://www.sendai-jma.go.jp/tda/fukushima/</p>

図 2-8 那須岳の噴火警戒レベル(1/2)

図 2-12 那須岳の噴火警戒レベル(1/2)

※最新版に変更されています。例えば想定火口域が赤円で図示されているところが現行版と異なります

【新旧対照表】那須岳火山噴火緊急減災対策砂防計画（基礎資料編）

該当箇所	更新後	現行																																																																				
<p>2.3 噴火シナリオ</p>	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p style="text-align: right;">平成21年3月31日運用開始</p> <h3 style="text-align: center;">那須岳の噴火警戒レベル</h3> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>名称</th> <th>対象範囲</th> <th>レベル (キーワード)</th> <th>火山活動の状況</th> <th>住民等の行動及び登山者・入山者等への対応</th> <th>想定される現象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">特別 警報</td> <td rowspan="2">噴火警報 居住地域 または噴火警報</td> <td rowspan="2">居住地域及びそれより火口側</td> <td style="background-color: #800080; color: white;">5 (避難)</td> <td>居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。</td> <td>危険な居住地域からの避難等が必要。</td> <td>●噴火が発生し、火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が居住地域に到達、あるいはそのような噴火が切迫している。または大きな噴石が概ね4km程度の範囲に飛散する噴火が切迫、あるいは発生。 過去事例 1410年：ブルカノ式噴火発生、その後火砕流が約8km流下、泥流の発生</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #800080; color: white;">4 (避難準備)</td> <td>居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。</td> <td>警戒が必要な居住地域での避難準備、要配慮者の避難等が必要。</td> <td>●火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が居住地域まで到達する噴火、または大きな噴石が概ね4km程度の範囲まで飛散する噴火の発生が予想される。 過去事例 1408～1410年：水蒸気噴火が頻発</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">警報</td> <td rowspan="2">噴火警報（火口周辺） または火口周辺警報</td> <td rowspan="2">火口から居住地域近くまで または火口周辺</td> <td style="background-color: #FFA500;">3 (入山規制)</td> <td>居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。</td> <td>住民は通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備。 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。</td> <td>●中規模噴火が発生し、山頂から概ね2.5km程度まで大きな噴石が飛散。 過去事例 1881年：水蒸気噴火発生 ●中規模噴火の発生が予想される。 過去事例 事例なし</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #FFA500;">2 (火口周辺規制)</td> <td>火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。</td> <td>住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。</td> <td>●小規模噴火が発生し、山頂から概ね1.5km程度まで大きな噴石が飛散。（ごく小規模噴火含む） 過去事例 1953年、1960年、1963年：水蒸気噴火発生 ●小規模噴火の発生が予想される。 過去事例 事例なし</td> </tr> <tr> <td>予報</td> <td>噴火予報</td> <td>火口内等</td> <td style="background-color: #FFD700;">1 (活火山であることに留意)</td> <td>火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。</td> <td>状況に応じて火口内への立入規制等。</td> <td>●火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び一部火口外に影響する程度の噴出の可能性あり。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注1) ここいう「大きな噴石」とは、概ね20～30m以上の、影の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散するものを示す。 この噴火警戒レベルは、地元市町村等と調整の上で作成したものです。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、関係する各市町村にお問い合わせください。 ■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧いただけます。 https://www.jma.go.jp/jma/index.html</p> <p style="text-align: center;">図 2-9 那須岳の噴火警戒レベル(2/2)</p> </div>	種別	名称	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等	特別 警報	噴火警報 居住地域 または噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●噴火が発生し、火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が居住地域に到達、あるいはそのような噴火が切迫している。または大きな噴石が概ね4km程度の範囲に飛散する噴火が切迫、あるいは発生。 過去事例 1410年：ブルカノ式噴火発生、その後火砕流が約8km流下、泥流の発生	4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備、要配慮者の避難等が必要。	●火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が居住地域まで到達する噴火、または大きな噴石が概ね4km程度の範囲まで飛散する噴火の発生が予想される。 過去事例 1408～1410年：水蒸気噴火が頻発	警報	噴火警報（火口周辺） または火口周辺警報	火口から居住地域近くまで または火口周辺	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備。 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	●中規模噴火が発生し、山頂から概ね2.5km程度まで大きな噴石が飛散。 過去事例 1881年：水蒸気噴火発生 ●中規模噴火の発生が予想される。 過去事例 事例なし	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。	●小規模噴火が発生し、山頂から概ね1.5km程度まで大きな噴石が飛散。（ごく小規模噴火含む） 過去事例 1953年、1960年、1963年：水蒸気噴火発生 ●小規模噴火の発生が予想される。 過去事例 事例なし	予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び一部火口外に影響する程度の噴出の可能性あり。	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p style="text-align: right;">平成21年3月運用開始</p> <h3 style="text-align: center;">那須岳の噴火警戒レベル</h3> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>予報警報</th> <th>対象範囲</th> <th>レベル (キーワード)</th> <th>火山活動の状況</th> <th>住民等の行動及び登山者・入山者等への対応</th> <th>想定される現象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">噴火警報</td> <td rowspan="2">居住地域及びそれより火口側</td> <td style="background-color: #800080; color: white;">5 (避難)</td> <td>居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。</td> <td>危険な居住地域からの避難等が必要。</td> <td>●火砕流、融雪型泥流が居住地域に切迫している、あるいは到達。また噴石が概ね4km程度の範囲に飛散する噴火が切迫、あるいは発生。 過去事例 1410年：ブルカノ式噴火発生、その後火砕流が約8km流下、泥流の発生</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #800080; color: white;">4 (避難準備)</td> <td>居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。</td> <td>警戒が必要な居住地域での避難準備、災害時要援護者の避難等が必要。</td> <td>●小～中規模噴火が頻発し、火砕流、融雪型泥流（冬季の場合）が居住地域まで到達する噴火、または噴石が4km程度の範囲まで飛散する噴火の発生が予想される。 過去事例 1408～1410年：水蒸気噴火が頻発</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">火口周辺警報</td> <td rowspan="2">火口から居住地域近くまで または火口周辺</td> <td style="background-color: #FFA500;">3 (入山規制)</td> <td>居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。</td> <td>住民は通常の生活。状況に応じて災害時要援護者の避難準備。登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。</td> <td>●山頂付近から中規模噴火が発生し、半径2.5km程度まで大きな噴石が飛散。 過去事例 1881年：水蒸気噴火発生 ●中規模噴火の発生が予想される。 過去事例 事例なし</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #FFA500;">2 (火口周辺規制)</td> <td>火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。</td> <td>住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。</td> <td>●山頂付近から小規模噴火が発生し、半径1.5km程度まで大きな噴石が飛散。 過去事例 事例なし ●小規模噴火の発生が予想されるごく小規模の噴火。 過去事例 1953年の噴火</td> </tr> <tr> <td>噴火予報</td> <td>火口内等</td> <td style="background-color: #FFD700;">1 (平常)</td> <td>火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。</td> <td>状況に応じて火口内への立入規制等。</td> <td>●火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び一部火口外に影響する程度の噴出の可能性あり。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注1) ここいう「大きな噴石」とは、主として風の影響を受けずに弾道を描いて飛散するものを示す。 この噴火警戒レベルは、地元市町村等と調整の上で作成したものです。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、関係する各市町村にお問い合わせください。 ■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧いただけます。 http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html</p> <p style="text-align: center;">図 2-13 那須岳の噴火警戒レベル(2/2)</p> </div>	予報警報	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等	噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●火砕流、融雪型泥流が居住地域に切迫している、あるいは到達。また噴石が概ね4km程度の範囲に飛散する噴火が切迫、あるいは発生。 過去事例 1410年：ブルカノ式噴火発生、その後火砕流が約8km流下、泥流の発生	4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備、災害時要援護者の避難等が必要。	●小～中規模噴火が頻発し、火砕流、融雪型泥流（冬季の場合）が居住地域まで到達する噴火、または噴石が4km程度の範囲まで飛散する噴火の発生が予想される。 過去事例 1408～1410年：水蒸気噴火が頻発	火口周辺警報	火口から居住地域近くまで または火口周辺	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて災害時要援護者の避難準備。登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	●山頂付近から中規模噴火が発生し、半径2.5km程度まで大きな噴石が飛散。 過去事例 1881年：水蒸気噴火発生 ●中規模噴火の発生が予想される。 過去事例 事例なし	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。	●山頂付近から小規模噴火が発生し、半径1.5km程度まで大きな噴石が飛散。 過去事例 事例なし ●小規模噴火の発生が予想されるごく小規模の噴火。 過去事例 1953年の噴火	噴火予報	火口内等	1 (平常)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び一部火口外に影響する程度の噴出の可能性あり。
種別	名称	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等																																																																
特別 警報	噴火警報 居住地域 または噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●噴火が発生し、火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が居住地域に到達、あるいはそのような噴火が切迫している。または大きな噴石が概ね4km程度の範囲に飛散する噴火が切迫、あるいは発生。 過去事例 1410年：ブルカノ式噴火発生、その後火砕流が約8km流下、泥流の発生																																																																
			4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備、要配慮者の避難等が必要。	●火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が居住地域まで到達する噴火、または大きな噴石が概ね4km程度の範囲まで飛散する噴火の発生が予想される。 過去事例 1408～1410年：水蒸気噴火が頻発																																																																
警報	噴火警報（火口周辺） または火口周辺警報	火口から居住地域近くまで または火口周辺	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備。 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	●中規模噴火が発生し、山頂から概ね2.5km程度まで大きな噴石が飛散。 過去事例 1881年：水蒸気噴火発生 ●中規模噴火の発生が予想される。 過去事例 事例なし																																																																
			2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。	●小規模噴火が発生し、山頂から概ね1.5km程度まで大きな噴石が飛散。（ごく小規模噴火含む） 過去事例 1953年、1960年、1963年：水蒸気噴火発生 ●小規模噴火の発生が予想される。 過去事例 事例なし																																																																
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び一部火口外に影響する程度の噴出の可能性あり。																																																																
予報警報	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等																																																																	
噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●火砕流、融雪型泥流が居住地域に切迫している、あるいは到達。また噴石が概ね4km程度の範囲に飛散する噴火が切迫、あるいは発生。 過去事例 1410年：ブルカノ式噴火発生、その後火砕流が約8km流下、泥流の発生																																																																	
		4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備、災害時要援護者の避難等が必要。	●小～中規模噴火が頻発し、火砕流、融雪型泥流（冬季の場合）が居住地域まで到達する噴火、または噴石が4km程度の範囲まで飛散する噴火の発生が予想される。 過去事例 1408～1410年：水蒸気噴火が頻発																																																																	
火口周辺警報	火口から居住地域近くまで または火口周辺	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて災害時要援護者の避難準備。登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	●山頂付近から中規模噴火が発生し、半径2.5km程度まで大きな噴石が飛散。 過去事例 1881年：水蒸気噴火発生 ●中規模噴火の発生が予想される。 過去事例 事例なし																																																																	
		2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。	●山頂付近から小規模噴火が発生し、半径1.5km程度まで大きな噴石が飛散。 過去事例 事例なし ●小規模噴火の発生が予想されるごく小規模の噴火。 過去事例 1953年の噴火																																																																	
噴火予報	火口内等	1 (平常)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び一部火口外に影響する程度の噴出の可能性あり。																																																																	

※最新版に変更されています。例えば噴火警戒レベル 1 の記載が[平常]から[活火山であることに留意]に変更されています

【新旧対照表】那須岳火山噴火緊急減災対策砂防計画（基礎資料編）

該当箇所	更新後	現行																					
<p>2.3 噴火シナリオ</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="472 316 501 352">レベル</th> <th data-bbox="472 316 920 352">那須岳の噴火警戒レベル判定基準 当該レベルへの引上げの基準</th> <th data-bbox="472 316 920 352">令和2年10月15日現在 当該レベルからの引下げの基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="472 352 501 427">5</td> <td data-bbox="472 352 920 427"> <p>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が切迫又は発生】 次のいずれかの場合 ①大きな噴石が山頂から概ね2.5kmを超えて飛散するような噴火が切迫、あるいは発生 ②火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が居住地域に切迫、あるいは到達</p> </td> <td data-bbox="472 352 920 427"> <p>左記の条件を満たさなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 427 501 655">4</td> <td data-bbox="472 427 920 655"> <p>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火の可能性】 次のいずれかの場合 ①マグマの貫入を示唆する山麓で揺れを感じるような規模の大きな地震が多発、あるいは多量のマグマの上昇を示す顕著な地殻変動（噴火がある中で） ②マグマの貫入を示唆する山麓で揺れを感じるような規模の大きな地震が多発するとともに、多量のマグマの上昇を示す顕著な地殻変動（長期間、噴火がない中で） ③山頂から概ね2.5kmまで影響を及ぼす噴火の頻発 ④噴火の噴出増加、明らかに新鮮なマグマ性物質が含まれており、マグマ噴火の可能性があると判断した場合（レベル3に該当する噴火がある中で） ⑤火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が流下し、居住地域に達する可能性</p> </td> <td data-bbox="472 427 920 655"> <p>同上</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 655 501 783">3</td> <td data-bbox="472 655 920 783"> <p>【山頂から概ね2.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性】 次のいずれかの観測された場合 ①山体で地震が増えるなど地殻活動のさらなる活発化（レベル2への引上げの基準①よりも回数多い又は振幅大） ②浅部の断層を示す明確で急激な地殻変動 ③振動の大きな火山性微動が連続的に発生、もしくは頻発 ④低周波地震（B.L型地震）の多発 ⑤噴煙量の更なる増加や、地熱域の拡大など熱活動の更なる高まり（レベル2に該当する火山活動の高まりがある中で） ⑥山頂から概ね1.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火が繰り返して発生（火山活動が高まる傾向がある中で）</p> </td> <td data-bbox="472 655 920 783"> <p>左記の現象が観測されなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 783 501 986">2</td> <td data-bbox="472 783 920 986"> <p>【山頂から概ね2.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の発生】 ⑦噴火が発生（大きな噴石の飛散範囲が山頂から概ね1.5kmを超え概ね2.5kmまでの範囲） 【山頂から概ね1.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性】 次のいずれかが観測された場合 ①山体で地震が増加（やや低周波の地震（B.H型地震）を含む地殻活動が活発化。目安：40回/24時間、もしくは100回/30日） ②次の現象が複数観測された場合 A) 山体で地震が増加（①の回数目安に達しない程度に増加） B) 浅部の断層を示す地殻変動 C) 火山性微動の発生 D) 低周波地震（B.L型地震）が複数回発生 E) 噴煙量の増加、もしくは地熱域の拡大や出現など熱活動の高まり 【山頂から概ね1.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の発生】 ③噴火が発生（想定火口域外に影響する程度の噴火を含む。大きな噴石の飛散範囲が山頂から概ね1.5km以内の範囲）</p> </td> <td data-bbox="472 783 920 986"> <p>左記のいずれかの現象も観測されなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。ただし、地殻変動については変動が停滞した段階、噴気や地熱活動については、活発化の傾向がないことが明らかになった段階、噴火後の地震活動については、活動の低下傾向が明確になった段階で引き下げる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 986 501 1023"></td> <td data-bbox="472 986 920 1023"> <p>（レベル1の火山活動の状況） 【火山活動が若干の高まりや異常が認められる】 ・噴気活動や地震活動に変化がみられたり、山体のわずかな膨張が認められたりする。 【火山活動は静穏】 ・山体の膨張を示す地殻変動が認められず、噴気の高さは概ね200m未満、地震は一月あたり数回～十数回程度で推移する。</p> </td> <td data-bbox="472 986 920 1023"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 1023 501 1203"></td> <td data-bbox="472 1023 920 1203"> <p>・ここでの「想定火口域」とは、那須岳山頂から半径500mの円形の領域をいう。 ・これまで観測されたことのないような観測データの変化があった場合や新たな観測データや知見が得られた場合はそれらを加味して評価した上でレベルを判断することもある。 ・レベルの引上げ基準に達していないが、今後、レベルを引き上げる可能性があるとして判断した場合、「火山の状況に関する解説情報（備考）」を発表する。また、現状、レベルを引き上げる可能性は低い、火山活動に変化がみられるなど、火山活動の状況を伝える必要があると判断した場合、「火山の状況に関する解説情報」を発表する。 ・火山の状況によっては、異常な現象が観測されずに噴火する場合もある。レベルの発表が必ずしも段階を遡って順番通りになるとは限らない（下がることも同然）。 ・各基準の番号は、「那須岳の噴火警戒レベル判定基準とその解説」において、「4. 噴火警戒レベルの判定基準とその考え方」で説明される番号に対応する。https://www.data.jma.go.jp/6d/vois/data/tokyo/STDC/level/ki_jann/30_level1_baijitsuu.pdf</p> </td> <td data-bbox="472 1023 920 1203"></td> </tr> </tbody> </table>	レベル	那須岳の噴火警戒レベル判定基準 当該レベルへの引上げの基準	令和2年10月15日現在 当該レベルからの引下げの基準	5	<p>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が切迫又は発生】 次のいずれかの場合 ①大きな噴石が山頂から概ね2.5kmを超えて飛散するような噴火が切迫、あるいは発生 ②火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が居住地域に切迫、あるいは到達</p>	<p>左記の条件を満たさなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。</p>	4	<p>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火の可能性】 次のいずれかの場合 ①マグマの貫入を示唆する山麓で揺れを感じるような規模の大きな地震が多発、あるいは多量のマグマの上昇を示す顕著な地殻変動（噴火がある中で） ②マグマの貫入を示唆する山麓で揺れを感じるような規模の大きな地震が多発するとともに、多量のマグマの上昇を示す顕著な地殻変動（長期間、噴火がない中で） ③山頂から概ね2.5kmまで影響を及ぼす噴火の頻発 ④噴火の噴出増加、明らかに新鮮なマグマ性物質が含まれており、マグマ噴火の可能性があると判断した場合（レベル3に該当する噴火がある中で） ⑤火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が流下し、居住地域に達する可能性</p>	<p>同上</p>	3	<p>【山頂から概ね2.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性】 次のいずれかの観測された場合 ①山体で地震が増えるなど地殻活動のさらなる活発化（レベル2への引上げの基準①よりも回数多い又は振幅大） ②浅部の断層を示す明確で急激な地殻変動 ③振動の大きな火山性微動が連続的に発生、もしくは頻発 ④低周波地震（B.L型地震）の多発 ⑤噴煙量の更なる増加や、地熱域の拡大など熱活動の更なる高まり（レベル2に該当する火山活動の高まりがある中で） ⑥山頂から概ね1.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火が繰り返して発生（火山活動が高まる傾向がある中で）</p>	<p>左記の現象が観測されなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。</p>	2	<p>【山頂から概ね2.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の発生】 ⑦噴火が発生（大きな噴石の飛散範囲が山頂から概ね1.5kmを超え概ね2.5kmまでの範囲） 【山頂から概ね1.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性】 次のいずれかが観測された場合 ①山体で地震が増加（やや低周波の地震（B.H型地震）を含む地殻活動が活発化。目安：40回/24時間、もしくは100回/30日） ②次の現象が複数観測された場合 A) 山体で地震が増加（①の回数目安に達しない程度に増加） B) 浅部の断層を示す地殻変動 C) 火山性微動の発生 D) 低周波地震（B.L型地震）が複数回発生 E) 噴煙量の増加、もしくは地熱域の拡大や出現など熱活動の高まり 【山頂から概ね1.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の発生】 ③噴火が発生（想定火口域外に影響する程度の噴火を含む。大きな噴石の飛散範囲が山頂から概ね1.5km以内の範囲）</p>	<p>左記のいずれかの現象も観測されなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。ただし、地殻変動については変動が停滞した段階、噴気や地熱活動については、活発化の傾向がないことが明らかになった段階、噴火後の地震活動については、活動の低下傾向が明確になった段階で引き下げる。</p>		<p>（レベル1の火山活動の状況） 【火山活動が若干の高まりや異常が認められる】 ・噴気活動や地震活動に変化がみられたり、山体のわずかな膨張が認められたりする。 【火山活動は静穏】 ・山体の膨張を示す地殻変動が認められず、噴気の高さは概ね200m未満、地震は一月あたり数回～十数回程度で推移する。</p>			<p>・ここでの「想定火口域」とは、那須岳山頂から半径500mの円形の領域をいう。 ・これまで観測されたことのないような観測データの変化があった場合や新たな観測データや知見が得られた場合はそれらを加味して評価した上でレベルを判断することもある。 ・レベルの引上げ基準に達していないが、今後、レベルを引き上げる可能性があるとして判断した場合、「火山の状況に関する解説情報（備考）」を発表する。また、現状、レベルを引き上げる可能性は低い、火山活動に変化がみられるなど、火山活動の状況を伝える必要があると判断した場合、「火山の状況に関する解説情報」を発表する。 ・火山の状況によっては、異常な現象が観測されずに噴火する場合もある。レベルの発表が必ずしも段階を遡って順番通りになるとは限らない（下がることも同然）。 ・各基準の番号は、「那須岳の噴火警戒レベル判定基準とその解説」において、「4. 噴火警戒レベルの判定基準とその考え方」で説明される番号に対応する。https://www.data.jma.go.jp/6d/vois/data/tokyo/STDC/level/ki_jann/30_level1_baijitsuu.pdf</p>		<p>更新後の記載に対応するページは現行計画にはありません</p>
レベル	那須岳の噴火警戒レベル判定基準 当該レベルへの引上げの基準	令和2年10月15日現在 当該レベルからの引下げの基準																					
5	<p>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が切迫又は発生】 次のいずれかの場合 ①大きな噴石が山頂から概ね2.5kmを超えて飛散するような噴火が切迫、あるいは発生 ②火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が居住地域に切迫、あるいは到達</p>	<p>左記の条件を満たさなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。</p>																					
4	<p>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火の可能性】 次のいずれかの場合 ①マグマの貫入を示唆する山麓で揺れを感じるような規模の大きな地震が多発、あるいは多量のマグマの上昇を示す顕著な地殻変動（噴火がある中で） ②マグマの貫入を示唆する山麓で揺れを感じるような規模の大きな地震が多発するとともに、多量のマグマの上昇を示す顕著な地殻変動（長期間、噴火がない中で） ③山頂から概ね2.5kmまで影響を及ぼす噴火の頻発 ④噴火の噴出増加、明らかに新鮮なマグマ性物質が含まれており、マグマ噴火の可能性があると判断した場合（レベル3に該当する噴火がある中で） ⑤火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）が流下し、居住地域に達する可能性</p>	<p>同上</p>																					
3	<p>【山頂から概ね2.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性】 次のいずれかの観測された場合 ①山体で地震が増えるなど地殻活動のさらなる活発化（レベル2への引上げの基準①よりも回数多い又は振幅大） ②浅部の断層を示す明確で急激な地殻変動 ③振動の大きな火山性微動が連続的に発生、もしくは頻発 ④低周波地震（B.L型地震）の多発 ⑤噴煙量の更なる増加や、地熱域の拡大など熱活動の更なる高まり（レベル2に該当する火山活動の高まりがある中で） ⑥山頂から概ね1.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火が繰り返して発生（火山活動が高まる傾向がある中で）</p>	<p>左記の現象が観測されなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。</p>																					
2	<p>【山頂から概ね2.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の発生】 ⑦噴火が発生（大きな噴石の飛散範囲が山頂から概ね1.5kmを超え概ね2.5kmまでの範囲） 【山頂から概ね1.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性】 次のいずれかが観測された場合 ①山体で地震が増加（やや低周波の地震（B.H型地震）を含む地殻活動が活発化。目安：40回/24時間、もしくは100回/30日） ②次の現象が複数観測された場合 A) 山体で地震が増加（①の回数目安に達しない程度に増加） B) 浅部の断層を示す地殻変動 C) 火山性微動の発生 D) 低周波地震（B.L型地震）が複数回発生 E) 噴煙量の増加、もしくは地熱域の拡大や出現など熱活動の高まり 【山頂から概ね1.5km以内の範囲に影響を及ぼす噴火の発生】 ③噴火が発生（想定火口域外に影響する程度の噴火を含む。大きな噴石の飛散範囲が山頂から概ね1.5km以内の範囲）</p>	<p>左記のいずれかの現象も観測されなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。ただし、地殻変動については変動が停滞した段階、噴気や地熱活動については、活発化の傾向がないことが明らかになった段階、噴火後の地震活動については、活動の低下傾向が明確になった段階で引き下げる。</p>																					
	<p>（レベル1の火山活動の状況） 【火山活動が若干の高まりや異常が認められる】 ・噴気活動や地震活動に変化がみられたり、山体のわずかな膨張が認められたりする。 【火山活動は静穏】 ・山体の膨張を示す地殻変動が認められず、噴気の高さは概ね200m未満、地震は一月あたり数回～十数回程度で推移する。</p>																						
	<p>・ここでの「想定火口域」とは、那須岳山頂から半径500mの円形の領域をいう。 ・これまで観測されたことのないような観測データの変化があった場合や新たな観測データや知見が得られた場合はそれらを加味して評価した上でレベルを判断することもある。 ・レベルの引上げ基準に達していないが、今後、レベルを引き上げる可能性があるとして判断した場合、「火山の状況に関する解説情報（備考）」を発表する。また、現状、レベルを引き上げる可能性は低い、火山活動に変化がみられるなど、火山活動の状況を伝える必要があると判断した場合、「火山の状況に関する解説情報」を発表する。 ・火山の状況によっては、異常な現象が観測されずに噴火する場合もある。レベルの発表が必ずしも段階を遡って順番通りになるとは限らない（下がることも同然）。 ・各基準の番号は、「那須岳の噴火警戒レベル判定基準とその解説」において、「4. 噴火警戒レベルの判定基準とその考え方」で説明される番号に対応する。https://www.data.jma.go.jp/6d/vois/data/tokyo/STDC/level/ki_jann/30_level1_baijitsuu.pdf</p>																						
	<p>図 2-10 那須岳の噴火警戒レベル判定基準</p>																						

この頁は更新版において追加されたものです（現行計画にはありません）

【新旧対照表】那須岳火山噴火緊急減災対策砂防計画（基礎資料編）

該当箇所	更新後	現行
<p>2.4 現在の火山活動状況</p>	<p>2.4 現在の火山活動状況 気象庁¹⁾によると、令和3年2月末時点における那須岳の火山活動状況は次のとおりである。</p> <div data-bbox="546 368 1111 1246" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; font-size: small;">火山活動解説資料（令和3年1月）</p> <p style="text-align: center;">那須岳の火山活動解説資料（令和3年1月） 気象庁地震火山部 火山監視・警報センター</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p style="font-size: x-small;">火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。 噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。</p> </div> <p>○ 活動概況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・噴気など表面現象の状況（図1、図2、図3-①②、図4-①） 湯本ツムジケ平監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南東約5km）及び日の出平北監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南西約0.8km）による観測では、茶臼岳の噴気は一時的に200mまで上がることがあるものの少ない状態で経過しました。 ・地震や微動の発生状況（図3-③、図4-②、図5） 那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。震源は、主に茶臼岳付近の深さ0～2kmに分布しました。火山性微動は観測されていません。 ・地殻変動の状況（図4-③～⑦、図6） GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。 <div data-bbox="573 738 1075 1042" style="text-align: center;"> <p style="font-size: x-small;">図1 那須岳 茶臼岳の状況（1月20日、湯本ツムジケ平監視カメラによる）</p> </div> <p style="font-size: x-small;">この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧できます。次回の火山活動解説資料（令和3年2月分）は令和3年3月8日に発表する予定です。この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/baitetsu/kansozumyaku/roku1.html 資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。</p> <p style="text-align: center; font-size: x-small;">- 1 - 那須岳</p> </div> <p style="text-align: center;">図 2-11 那須岳の火山活動の状況¹⁾ (1/6) ¹⁾ https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact_vol.php?id=301 那須岳の火山活動状況は上記 URL で随時更新されている。</p>	<p>2.2 現在の火山活動状況 気象庁¹⁾によると、平成25年6月末時点における那須岳の火山活動状態は次のとおりである。</p> <div data-bbox="1267 368 2018 1246" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-size: x-small;">火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。 平成21年3月31日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。</p> </div> <p>○ 活動概況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①②） 那須湯本（山頂火口（茶臼岳）の南東約5km）に設置してある遠望カメラによる観測では、茶臼岳の噴気は少ない状態で、噴気高度は火口縁上0～100mで経過しました。 ・地震や微動の発生状況（図2-③④、図3） 那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は静穏に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。 ・地殻変動の状況（図4） GPS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。 <div data-bbox="1384 699 1877 1066" style="text-align: center;"> <p style="font-size: x-small;">図1 那須岳 茶臼岳の状況（6月17日、那須湯本ツムジケ平遠望カメラによる）</p> </div> <p style="font-size: x-small;">この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成25年7月分）は平成25年8月8日に発表する予定です。この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。</p> </div> <p style="text-align: center;">図 2-5 那須岳の火山活動の状況¹⁾ (1/4) ¹⁾ http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm 那須岳の火山活動状況は上記 URL で随時更新されている。</p>